

周遊滞在エリアの観光移動に関する課題

- ① 来訪者が周遊滞在エリア内を容易に巡ることができ、かつ様々な観光スポットへの周遊を喚起・誘発する取組が必要。
- ② 自家用車で来訪しやすく周遊しやすい移動環境が必要。
- ③ ゾーン間の移動を支援する取組が必要。
- ④ 既存の観光関連施設の機能を十分に発揮させる取組が必要。

地域における課題

- ① 少子高齢化の進展に対応した、地域活性化策が必要。

周遊モビリティ導入の際に留意すること

- ① グリスロは、観光客利用を主な目的とした運行が望ましい。
- ② 既存の公共交通等と連携した計画とすることが必要。
- ③ 観光客のメリットだけでなく、地域住民にもメリットになる取組でなければ、持続可能な取り組みとならない。
- ④ ルート検討の際は、一般交通を阻害せず、かつ自転車・歩行者の安全が確保できるよう配慮が必要。

実証実験の結果

- ① 今後は地域の商店や地域住民等と連携して関連する取組を行い、更なるエリアの魅力向上を図った方が良い。
- ② グリスロは対象を観光客及び地域住民として検討した方が良い。
- ③ グリスロはルート上で乗降するなどの周遊滞在に繋がる観点での起終点の検討が必要。
- ④ 観光スポットでの音声案内の検討は必要。
- ⑤ 観光モデルコース及び地域のおでかけツアーも継続して導入を検討した方が良い。
- ⑥ ループバスは、生活交通としての導入は検討に時間を費やす可能性がある為、観光面からの導入を優先することも検討した方が良い。

周遊滞在エリア
形成のための課題
解決の方向性

心ときめく出会いを生む
モビリティ向上を基軸とした周遊滞在型観光地づくり

モビリティ向上の方向性と施策（案）

～ 周遊モビリティの体系づくり ～

1 周遊滞在エリア全体
での観光周遊を支援する
移動環境をつくる

【交通体系づくり】

- 1.1) 安全・安心・快適にゆっくり周遊滞在できるエリア形成
- 1.2) 観光駐車場等の適正な運用
- 1.3) ループバスの導入検討
- 1.4) グリーンスローモビリティの導入
- 1.5) パーソナルモビリティの拡充

2 観光客が利用したく
なる周遊モビリティを
つくる

【魅力づくり】

- 2.1) 観光モデルコース作成
- 2.2) 利用環境・情報提供の充実
- 2.3) 付加価値の付与
- 2.4) ネーミングや車両ラッピングの工夫

3 地域関係者の連携に
より、持続性を備え、
親しまれる周遊モビ
リティをつくる

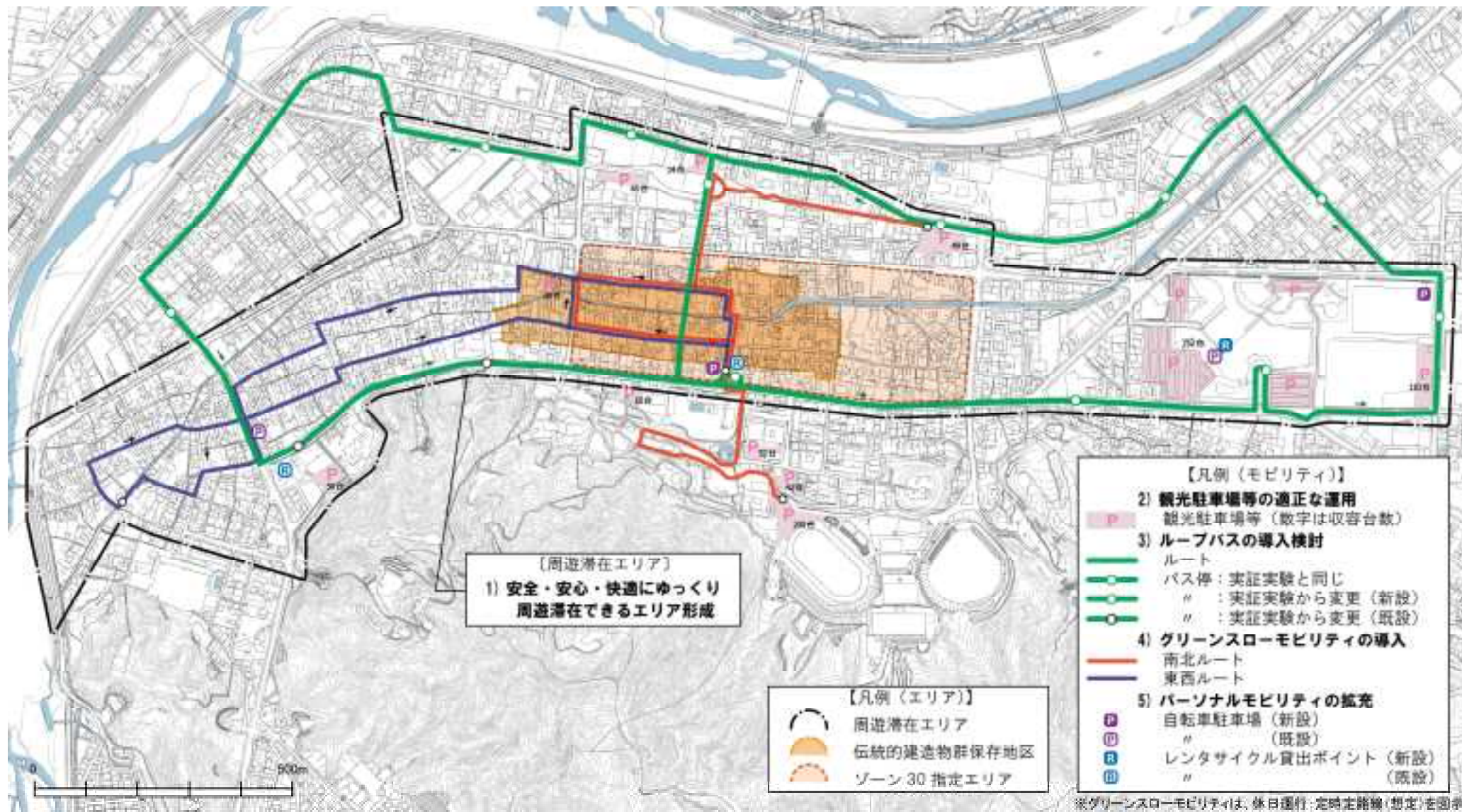
【地域連携強化】

- 3.1) 新たなモビリティの運行体制・事業スキームづくり
- 3.2) 新たなモビリティの地域住民外出支援ツールとしての活用検討

• 本章からモビリティ向上の方向性と具体策を示します。なお、以下に挙げる項目については、今後、優先順位をつけながら個別具体的に事業化を検討することとします。

1 周遊滞在エリア全体での観光周遊を支援する移動環境をつくる【交通体系づくり】

• 周遊滞在エリア全体でのモビリティ向上のためには、既存の交通手段を活かしながら、これらを補完する形で新たなモビリティの導入を進め、各種交通手段が有機的に連携する周遊モビリティの交通体系を構築します。



▲周遊モビリティの交通体系イメージ

1 周遊滞在エリア全体での観光周遊を支援する移動環境をつくる【交通体系づくり】

1.1) 安全・安心・快適にゆっくり周遊滞在できるエリア形成

- ・周遊滞在エリア内には、古い町並みやアートを感じる建造物等を徒歩で楽しむことができる環境づくりは必要不可欠です。エリア内を徒歩で移動する観光客を対象に、町並みや建物を眺めながら散歩できる空間の整備を行います。
- ・また、エリア内はスローなモビリティも走行できるよう、自動車事故等のない観光客が安心して居心地よく周遊滞在できるエリアの形成が必要です。

①観光散策ルート等の歩行空間整備

周遊滞在エリア内で散歩を楽しむ観光客にとって、安全・安心に歩くことができるとともに、景色や会話を楽しみながら、ゆっくりと歩くことができる環境が必要です。そのため、観光散策ルート等の歩行空間を整備し、初めて訪れた観光客でも分かりやすく、安全に散歩できるとともに、観光客が白壁土蔵の古い町並みやアートを感じて心ときめかせるような仕掛けづくりを行います。

<具体的な取り組み内容>

①-1 修景舗装(カラー舗装)

重要伝統的建造物群保存地区については整備済みですが、重要伝統的建造物群保存地区外は今後、観光客が散歩するルートが分かりやすいように、カラー舗装等による整備を検討します。

①-2 舗装修繕

エリア内の散歩ルートにおいて、歩行者が歩きにくく、転倒等の危険性が及ぶような凹凸のあるところは舗装の修繕を検討します。

①-3 街路灯整備

夜間や夕暮れ時も観光客が散歩を楽しめるよう観光地の魅力向上の為に、街路灯の整備を検討します。

①-4 観光案内・誘導標識の見直し

散歩する観光客が分かりやすいよう現地での案内として、エリア全体を案内する案内板や、迷わず歩くことができるように路面標示での経路案内等の整備を検討します。

▼修景済みの舗装箇所



②観光駐車場・バス停～観光拠点間の歩行空間整備

観光駐車場・バス停～観光拠点間の移動は、観光客が安心・安全に歩くことができるとともに、観光拠点までの道のりの中で観光客を最低限疲れさせずに移動させる必要があります。そのため、楽しみながら安全に迷わず移動できるように、観光駐車場・バス停～観光拠点間の歩行空間を整備します。

<具体的な取り組み内容>

②-1 舗装修繕

観光客が自家用車やバスを降りて観光拠点とは離れた場所から安心して歩けるよう、凹凸部の補修等を検討します。

②-2 街路灯整備

観光駐車場・バス停～観光拠点までの長い距離を観光客が楽しみながら、安全に歩くことができるよう観光地の魅力向上の為に、街路灯の整備を検討します。

②-3 観光案内・誘導標識の見直し

観光客が観光駐車場やバス停等から観光拠点まで迷わず快適に行くことができるようエリア全体を示す案内板の整備や路面標示等での経路案内を検討します。

▼観光地での街路灯イメージ（金沢市成巽閣）



出典：金沢市観光協会HP

1 周遊滞在エリア全体での観光周遊を支援する移動環境をつくる【交通体系づくり】

③プロムナード公園の再整備

現在、宮川町観光駐車場は、トイレや駐車マス等も整備されているものの、多くの観光客が活用できていない状況があります。また、現在のプロムナード公園は、旧国鉄倉吉線の面影を残しながら、アートな彫刻を設置している地域の大切な資源ですが、観光客の利用はほとんど見受けられない状況です。そのため、観光客が宮川町観光駐車場から徒歩やグリスロでプロムナード公園を楽しみながら散策することができるよう再整備を検討します。

▼プロムナード公園



アートな彫刻が設置してあるものの、路面が歩きにくく、観光客の姿はほとんど見受けられない

⑤公衆用Wi-Fiの整備

観光客が歩きながらXR(ARやVR、MR等)を活用したコンテンツを快適に楽しむことができるよう公衆用Wi-Fiの整備を検討します。



◀空間認識技術を活用したAR観光ガイド

XRを活用した観光バスツアー▶



④屋外ベンチの追加整備

周遊滞在エリアは広く、散策をする観光客が歩き疲れてしまうため、すぐに休憩できたり、食べ歩きなどを楽しんだりできるような休憩場所(屋外ベンチ等)の確保を検討します。

▼既存のまちなかベンチ



▼玉川沿い等でのベンチ設置をイメージ



⑥エリア20等の導入

周遊滞在エリア内の特に歩行者が多く、現況でエリア30に指定されているエリアについては、今後、スローモビリティと徒歩での移動が安心して快適にできるようエリア20等の導入を検討します。

▼観光地におけるエリア20の安全性向上対策例
(京都府京都市三条通り)



従前撤去された二車線並行の交通路

規制が行われたエリア
<http://www.kyoto-da-boku.jp/archives/4573134.html>

1 周遊滞在エリア全体での観光周遊を支援する移動環境をつくる【交通体系づくり】

1.2) 観光駐車場等の適正な運用

・周遊滞在エリアのモビリティ向上に向けて、来訪する交通手段のうちで最も多い自動車~~の動きをコントロール~~し、エリア内外で利用する交通手段を円滑に組み合わせることで、エリア内を容易に周遊できる環境を構築し、周遊を喚起・誘発します。

①経路案内看板の再整備

現在、自動車移動する観光客の多くが琴櫻・赤瓦観光駐車場へ集中しており、駐車場の出入り口では頻繁に交通混乱が生じています。エリア内に観光駐車場は分散して立地しているものの、現地案内が少なく、ドライバーから場所が分かりにくいことも要因の一つでも考えられます。そのため、自動車でエリア内に来訪する観光客が、現地で迷わず琴櫻・赤瓦観光駐車場以外の駐車場へ行くことができるよう案内看板の整備を検討します。



▲混雑時の琴櫻・赤瓦観光駐車場の様子



▲駐車場の経路案内例 (やまなみハイウェイ)

③各駐車場での名称表示

地域を知らない観光客にとっては、駐車場の出入り口周辺の案内を頼りにしていると同時に、現地で観光駐車場を容易に探すことも重要です。そのため、各駐車場の敷地の出入り口で統一された駐車場名称の表示を行い、迷わずアクセスできるよう整備を検討します。

出典：湯浅町観光協会HP



▲観光駐車場の名称看板 (左：湯浅町 右：三島町)



出典：三島町観光地域づくり情報サイトHP

②webによる駐車場案内充実

近年、観光客の多くが観光地へ訪れる前に事前にスマホやPC等で情報を検索しています。自動車~~で来訪する観光客も~~、旅行前に駐車場に関する情報を閲覧できるようWEBによる駐車場案内の充実を図ることが必要です。

<具体的な取り組み内容>

②-1 観光駐車場マップの添付

各駐車場の位置関係や駐車場規模を把握することのできる、分かりやすいマップを作成し、閲覧できるように検討します。

②-2 駐車場位置の経路案内

現地で駐車場まで迷わずに行くことができるよう、駐車場までの経路案内の情報提供を検討します。(Googleマップへのリンク等)

②-3 駐車場の満空情報の提供

観光客は、目的地周辺の駐車場が満車の場合、エリアへの来訪を諦めてしまうことがあります。そのため、満車・空車状況をWEBで閲覧することができ、空車の観光駐車場を活用してもらうような情報提供を検討します。

駐車場と散歩道、主要施設等が一元的に掲載されたマップ



駐車場の位置情報、内容、経路、満空情報等が分かりやすい情報提供



▲リアルタイムな満空情報の提供例 (久留米市)

▲分かりやすい駐車場マップ例 (常滑市)

1 周遊滞在エリア全体での観光周遊を支援する移動環境をつくる【交通体系づくり】

④ 駐車場内での観光案内看板の見直し

観光駐車場に位置する案内マップ看板は、降車した歩行者が一番に目指すところであり、歩行者の動線を観光拠点へ向けるような設置位置が重要です。観光拠点から離れた位置にある案内看板について配置を見直すなどの検討を行います。

▼宮川町観光駐車場



観光拠点とは反対の方向に案内看板が整備されている

⑤ 駐車スペースの表示等

駐車場内において、駐車スペースの表示が十分でないことで空間を効率的に利用できず、また来訪者が駐車場として認識できない状況となります。鍛冶町観光駐車場など駐車スペースが明確でない駐車場の改善を行います。

▼鍛冶町観光駐車場



駐車マスが整備されていない

⑦ 琴櫻・赤瓦観光駐車場の廃止(利用転換)

自動車で来訪する観光客の多くは、琴櫻・赤瓦観光駐車場を訪れるものの駐車台数が少ないため、駐車することができず、頻繁に交通混雑が発生しています。それらの対応として、琴櫻・赤瓦観光駐車場を廃止し、別の機能を持たせたスペースとしての活用を検討するとともに、観光客には周辺の広くて駐車しやすい観光駐車場を利用してもらうような取組を検討します。

例) イベントスペースとして市から貸出を行う

例) 休憩用のお手洗いの整備 等

▼イベントスペースとしての活用(福山市)



▼休憩用トイレ(本市)



⑥ 駐車場の機能の充実

観光駐車場は、様々な世代や立場の方が有効的に活用できるよう、観光駐車場の機能充実を図ります。

例) パーク&ライド機能を持たせて、観光客が分かりやすく観光拠点まで行けるようにする

例) バイク駐車用のスペースや駐輪ラック等を整備し、バイクや自転車等も利用いただく

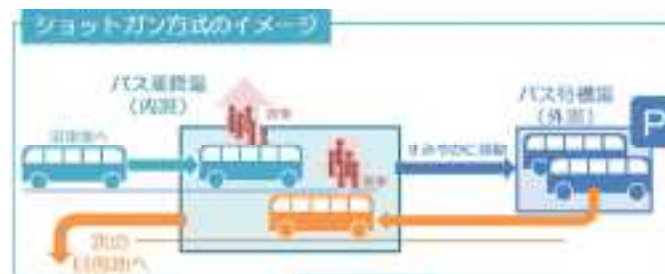
例) ハートフル機能を充実させて、身体障がいのある方等にも安心して利用いただく

▶ 鳥取県ハートフル
駐車場利用証



⑧ バス回転広場の運用見直し

バス回転広場は、観光バスの待機場所として使われており、立地も観光案内所の横と優れているものの、全ての駐車スペースが埋まることはなく、また観光バスの待機所として限られた時間しか利用されていないため、効率性に欠けています。そのため、観光バスのショットガン方式の採用や一般車両の駐車場の設置など効率的な運用方法を検討します。



駐車場の乗降場と待機場を分離して、用地に制約がある駐車場等の改善を図る方式

▲ 観光バスの運用方法例〔ショットガン方式〕(沼津市)

1 周遊滞在エリア全体での観光周遊を支援する移動環境をつくる【交通体系づくり】

1.3) ループバスの導入検討

・東西の距離の長い周遊滞在エリア内を移動する手段として、ループバスの導入を検討します。今後、エリア一体で観光客の周遊・滞在型観光を促すためには、特に、県立美術館建設予定地と白壁土蔵群をモビリティ等で接続する必要があります。

①ループバスの導入検討

実証実験の結果等を踏まえ、以下の方向性の元、今後、詳細を検討することとします。

【ループバス検証の背景】

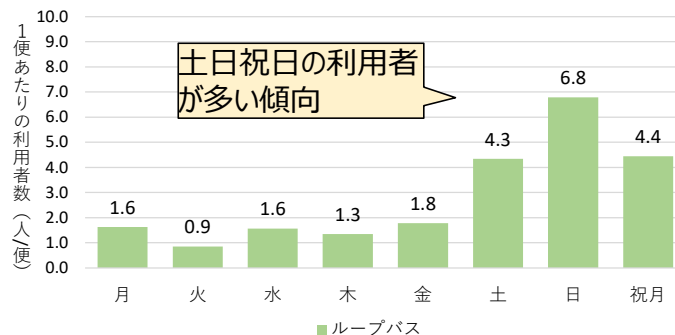
- ・観光客の多くは、パークスクエア及び観光案内所周辺に訪れているが、この区間は交通量の多い道路が位置しており、スローモビリティによる移動の支援は困難であるため、別途、移動手段の確保が必要。
- ・自動車で来訪する観光客に向けて、周辺の使われていない観光駐車場を活用しながら、ゾーン間の周遊を促す取組が必要。
- ・買い物困難者が一部地域に存在しているとともに、地区の高齢化も進展し、何らかの移動支援が必要。

【実証実験の結果】

- ・成徳・明倫地区を含む市民の利用が約8割で、買い物やお出かけを目的とした利用が多い。
- ・土日祝は利用者が特に多く、平日は少ない傾向にある。
- ・乗降場所は、観光案内所、パークスクエア、円形劇場等の主要な観光地の利用が多い。
- ・市外からの来訪者の利用は約2割であったが、琴櫻・赤瓦観光駐車場やパークスクエアの駐車場が満車のため、宮川町観光駐車場など周辺の駐車場に車を停めてループバスでゾーン間を移動する方も少なからず見受けられた。

【ループバス導入の方向性】

- ・まずは当面、**観光客を中心に**、来訪者の多い**土日祝の運行**の検討を進める。また、日曜日の平均利用者数が6.8名/便であったことも踏まえ、使用する**車両の大きさも検討**する。
- ・地域住民向けの平日運行については、市の公共交通の検討状況等を横目に、今後、適切な時期に検討に入る。



主要な観光地である観光案内所やパークスクエアの乗降が多い

1 周遊滞在エリア全体での観光周遊を支援する移動環境をつくる【交通体系づくり】

1.4) グリーンスローモビリティの導入

- ・新たな周遊モビリティとして、『グリーンスローモビリティ』の適用性が高いと考えられるため、導入を検討します。
- ・グリーンスローモビリティは、電動であることから環境にもやさしく、また、細い街路の走行も可能であり、周遊滞在エリアの回遊支援モビリティとして十分に優位性を発揮することができます。

①サービス内容の詳細設定

実証実験の結果等を踏まえ、以下の方向性に基づき、今後、詳細を検討します。

【グリーンスローモビリティ検証の背景】

- ・新たなモビリティを活用して、ゾーン間のモビリティを向上する案か、ゾーン内の魅力を向上する案かを検証する。
- ・グリスロの多様な運行の仕方のニーズを把握する。

【実証実験の結果】

- ・第1期・第2期ともに観光客・地域住民にとっても、グリスロの運行に対する満足度が非常に高く好評であった。
- ・定時定路線運行では、起点～終点までの1周利用が全体の約7割を占め、モビリティに乗って、町並みや景色を楽しむことが一つとコンテンツとなった。一方で、途中下車を誘引する滞在に向けた取組や音声案内等の観光おもてなしの取組が必要との意見もあった。
- ・観光モデルコースは、利用理由の約9割が「ガイド付きで観光案内をしてくれる」ことを挙げるなど、観光ガイドとグリスロの組み合わせの有用性が検証された。また、時間設定も好評であった。一方で、観光客へのPRや事前・当日予約方法については、改善が必要との声もあった。
- ・成徳・明倫地区お試しお出かけツアーは、利用者から好評であり、「普段行かないところまで足を延ばせて楽しかった」などの意見もあり、高齢者を中心とした外出支援に繋がることができたと考えられる。

【グリーンスローモビリティ導入の方向性】

- ・実証実験の内容が好評であったことを踏まえ、第1期・第2期の運行内容を平日と休日に分けた以下の運行形態の導入を検討する。
- ➡**休日は観光客・地域住民向けの定時定路線運行**とする。(実証実験の第1期赤ルート・青ルートをイメージ)
- ➡**平日は観光客向けにガイド付き観光ツアーや地域住民向けのお出かけツアー**などを中心とした**予約制運行**とする。(実証実験の第2期の平日に行った観光モデルコース、成徳・明倫地区お試しお出かけツアーをイメージ)

②車両購入・車庫等の整備

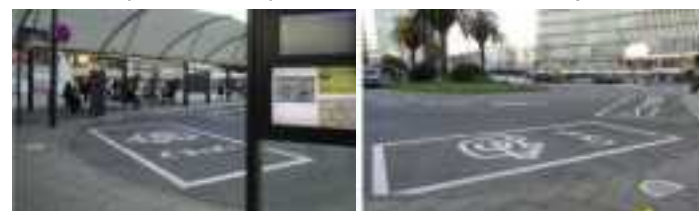
運行に向けて車両購入や車庫等の準備が必要です。必要に応じて国の支援等も活用しながら、車両購入に向けた準備を進めるとともに、グリスロは電気自動車であることから、既存施設の活用などで充電設備等を確保します。



③乗降場所整備・ルート明示

エリア内の歩行者等がグリスロの走行ルートを確認しやすいよう、起終点等でのグリスロの駐停車空間の整備や看板の設置・路面標示等のハード整備を検討します。

▼車両の駐停車場所の明示例（宮崎市）



④運行ルートの除雪計画の策定・実施

エリア内は細い路地が多く、降雪時にグリスロが運行する為には、計画的に除雪作業を行いルートを確認することが必要です。



1 周遊滞在エリア全体での観光周遊を支援する移動環境をつくる【交通体系づくり】

1.5) パーソナルモビリティの拡充

- ・周遊滞在エリア内では、徒歩移動が多く、歩行支援のモビリティ向上として、パーソナルモビリティの充実が必要です。
- ・現在のレンタサイクルをより利便性の高い取組となるように充実することや、新たなパーソナルモビリティの導入等の取組を推進します。

① レンタサイクルの拡充

現在の周遊滞在エリア内のレンタサイクルは、観光案内所及び円形劇場と貸し借りの場所が2か所のみとなっています。観光客は50代が多いものの、今後、県立美術館の開館に伴い、若い世代の来訪も増加することが予想されることから、レンタサイクルの拡充により、エリア内の周遊を促すことができると考えられます。そこで、パークスクエアにおけるレンタサイクルポートの新設やエリア全体での運用方法の統一を行うなど、使いやすいレンタサイクルの整備を検討します。



▲倉吉市内のレンタサイクル（3種類）

出典：倉吉観光MICE協会 HP

② バイク・自転車の駐輪場の拡充

エリア内には2輪車の駐輪場の数が限られているため、観光客の目的地となる場所の駐輪場を拡充し、目的地で観光を楽しんでもらうことが必要です。そこで、観光の拠点である琴櫻・赤瓦観光駐車場の駐輪場としての活用や県立美術館への駐輪場の新設等により、バイク・自転車の駐輪場の拡充を検討します。



▲観光・レジャー施設に駐輪場を設置する例（金沢市）

③ 自転車周遊モデルコースの作成

観光拠点の駐輪場の拡充を行うだけでなく、拠点間の移動を楽しんでもらうためにも自転車周遊モデルコースの作成を検討します。



観光地での自転車周遊▶
モデルコースの事例（丸亀市）

出典：丸亀市観光協会HP

④ 多様なモビリティの研究

今後の社会情勢や他地域の事例等を踏まえ、地域に合うモビリティを必要に応じて導入検討できるよう継続して調査研究します。



出典：LUUP HP



出典：小豆島観光協会HP

▲電動キックボード、超小型モビリティ

2 観光客が利用したくなる周遊モビリティをつくる【魅力づくり】

2.1) 観光モデルコース作成

- 周遊滞在エリア全体を示す観光案内マップや観光モデルコースの設定を行います。
- 併せて、観光モデルコースを広く紹介し、観光客に周遊を促す情報・きっかけを提供することが重要と考えます。

①観光案内マップの作成

現在の観光案内マップは、周遊滞在エリアを含めた一体的なものではなく、特定のエリアに絞ったマップのため、今後、エリア一体で観光を促進していくためにエリア全体の情報を掲示した観光案内マップの作成を検討します。

現在の観光マップ▶

白壁土蔵群内の観光モデルコースに限られている



③グリーンスローモビリティの駐停車スペースの確保

観光モデルコース上の観光スポットにおいて、観光ガイドが案内するためには、一度車両を停車し、車両から降りて丁寧に案内できる時間を確保する必要があります。そのためには、観光スポットの管理者などの協力を得てグリスロの駐停車スペースを確保できる取組を検討します。



▲実証実験でのモビリティの停車の様子

②観光モデルコース(グリスロ観光ツアー)の開発

周遊滞在エリアは、見どころも多いため、要点を絞りながら観光客に地域の歴史等を深堀し、楽しんでもらうような観光モデルコースの開発を行います。また、作成した観光モデルコースについては、観光ガイド同乗でグリスロを活用した運行を行うなどモビリティとの連携も検討します。



▲実証実験で利用した観光モデルコース (歴史的建造物を巡るコース)

- ▶ 1 : バス回転広場 (発)
- ▶ 2 : 倉吉市庁舎
- ▶ 3 : 羽衣池
- ▶ 4 : 飛龍閣
- ▶ 5 : 賀茂神社
- ▶ 6 : 協同組合倉吉大会 (旧第三銀行倉吉支店)
- ▶ 7 : 高田酒造
- ▶ 8 : 大社湯
- ▶ 9 : 山陰民具
- ▶ 10 : 丸井家住宅
- ▶ 11 : 旧倉吉町水源地
- ▶ 12 : 小川氏庭園・環翠園
- ▶ 13 : 豊田家住宅
- ▶ 14 : バス回転広場 (着)

④路上の案内表示等の整備

観光モデルコースは、マップの情報提供だけではなく、現地で迷わず散策できるような工夫が必要なため、観光客が分かりやすく観光できるように路上の案内表示などの整備を検討します。



▲主要観光スポットへの案内 (竹原市)

2 観光客が利用したくなる周遊モビリティをつくる【魅力づくり】

2.2) 利用環境・情報提供の充実

- ・観光マップや観光モデルコースは現場での情報案内はもとより、PCやスマートフォンで確認できるようにすることが極めて重要です。旅行前に周遊モビリティの存在を知らせることで、周遊滞在エリア内の回遊を誘発することが可能です。
- ・スマートフォンやPC、デジタルサイネージ等でリアルタイムな運行状況の配信等を行い、現地におけるモビリティの利用促進に繋がる情報提供を図ります。

①モビリティマップの作成

観光客に周遊してもらうためには、エリア内での情報提供として、まずは観光客がどのような手段でどこへ行くことができるかを理解できることが必要です。そのため、モビリティマップを作成し、多様なモビリティを使いこなしてエリア内を楽しみながら快適に周遊できる情報提供を検討します。また、エリア全体の観光案内マップとの一体的な情報提供を検討します。

③ルート・ダイヤの案内表示

観光客がモビリティを利用する際には、ルートやダイヤの情報が重要なため、ルート・ダイヤの案内に関する案内表示を整備することが必要です。また、複数のモビリティがある中で混乱しない分かりやすい情報提供を行うことも重要です。主要な観光スポットを中心に案内表示の掲出を検討します。

②乗降場所の案内表示

地域を初めて訪れた観光客でも分かりやすいよう、現地におけるモビリティ乗降場所に標柱などの整備を検討します。



▶実証実験においては標柱を設置

④デジタルサイネージの設置

現地における情報提供として、観光客の興味に沿った情報を閲覧できるようにデジタルサイネージの設置を行います。ここでは、モビリティの情報だけでなく、エリア内の観光情報も併せて提供し、エリアの周遊・滞在を促進できるように検討します。



▲デジタルサイネージの例（笠岡市）

⑤WEBによるモビリティ案内の充実

観光客がWEBで事前にモビリティの使い方を確認し、安心して周遊滞在エリアへ訪れることができるようここのマップなどのWEBによるモビリティ案内の充実を図ります。

< 具体的な取り組み内容 >

⑤-1 モビリティ総合案内

WEB専用ページなどを用いてモビリティの総合案内ページを作成、エリアの一体的なモビリティの情報を観光客が旅行前にスマートフォンやPC等で閲覧できるように整備を検討します。

⑤-2 リアルタイムの運行情報案内

モビリティは交通状況や利用者、悪天候等の影響を受け、必ずしも予定どおりに運行できない場合もあります。そうした際にリアルタイムで運行情報を案内することで、利用者が安心して待ち時間を過ごすことができるため、スマートフォン等でリアルタイムに運行情報を閲覧できる情報提供の整備を検討します。



◀▲実証実験で使用した位置情報システムの例

2 観光客が利用したくなる周遊モビリティをつくる【魅力づくり】

2.3) 付加価値の付与

- ・周遊モビリティは、単なる移動手段としてだけでなく、利用したくなるような魅力を備え、更には利用することが目的化するようなシステムとすることが望めます。
- ・利用環境として、QRコード等を活用した電子決済システムの導入等も検討し、利用環境の充実を図ります。

①観光に特化したグリーンスローモビリティの運用

観光客に周遊してもらうために、グリスロを上手く活用しながら、観光客が心ときめく、利用したくなるような取組を推進します。

<具体的な取り組み内容>

①-1 ガイド付きグリスロ観光ツアー開発

実証実験の期間中において、定時定路線の運行においても観光ガイドの同乗を求める声が多かったとともに、観光モデルコースで観光ガイドが同乗した際には満足度も非常に高かったことから、グリスロに観光ガイドが同乗した観光ツアーの開発が有効と考えます。周遊滞在エリアには、見どころも多いため、要点を絞りながら観光客に地域の歴史等を深掘し、楽しんでもらうようなガイド付きグリスロ観光ツアーの開発を検討します。

①-2 観光ガイドの確保・育成

現在、周遊滞在エリアを案内する観光ガイドは、人員が不足しているとともに、高齢化も進んでいることから、今後の人材不足が懸念されます。グリスロの観光ツアーとして観光ガイドを常時手配できるようにするためにも、新たな観光ガイドの人材確保及び育成が必要です。

また、観光客の満足度が付加価値の上昇に繋がるため、周遊滞在エリア内の観光ガイドの充実に向けて、講義や視察等を通じて在籍している観光ガイドの知識・技術の向上を図ります。

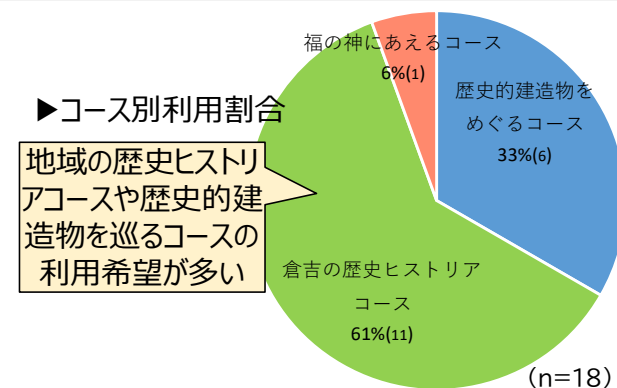
①-3 自動音声ガイド等の設置

実証実験では、観光ガイドの必要性が利用者から多く挙げられました。前述のとおり、今後、観光ガイドの人員不足が懸念されていることから、観光ガイドの不足を補いつつ観光客の満足度を向上するため、車内への自動音声ガイド等のICTを活用した観光コンテンツの整備も検討します。

▼実証実験での観光モデルコースの様子



利用者の方からは、
観光ガイドの説明が
特に好評



2 観光客が利用したくなる周遊モビリティをつくる【魅力づくり】

②モビリティと観光が一体になった観光商品の開発・導入

モビリティを多くの観光客が利用して、周遊滞在してもらうために、モビリティと観光が一体となった観光商品開発や他事業者が構築している観光MaaSへの参画等を検討します。宿泊施設や観光施設、飲食、体験企画等と連携し、モビリティに付加価値を設けることで、観光客が利用したくなるモビリティを検討します。



▲観光MaaSの取組事例 (tabiwa by WESTER)

旅マエの宿泊施設から旅ナカの周遊パスや観光施設等の予約・決裁を一括できるサービス

乗車チケットを持参することで商店街のガラポンに参加できるなど商店街と連携した取組を実施



▲商店街との連携事例 (宮崎市)

③全モビリティ共通利用券等の開発

複数あるモビリティを利用しやすくするため、共通利用券等の開発を検討します。また、導入時にはQRコード等の電子チケットの導入も検討し、より利用しやすい利用券となるよう検討します。

▼電子決済の回数券の例 (米子市)



出典:米子地域公共交通ポータルサイト

2.4) ネーミングや車両ラッピングの工夫

・ 周遊滞在エリアのモビリティであることを印象付けるようなネーミングやラッピングを施すことにより、観光客等の興味を喚起するとともに、地域関係者にとっても親しみを感じさせるような工夫も重要です。

①モビリティのネーミング・車両ラッピング

観光客にとって分かりやすいモビリティとしてネーミングや車両ラッピングを工夫することも地域の魅力づくりに繋がります。また、公募等を想定して、地域住民や地域の学生等からモビリティのネーミングや車両ラッピングのアイデアを取り入れることで、地域の愛着の醸成を図ります。



▲地域特産の瀬戸内レモンのカラーを施した車両 (尾道市の例)



▲地元、学生も参画する審査会により決定したモビリティの愛称 (太田市の例)

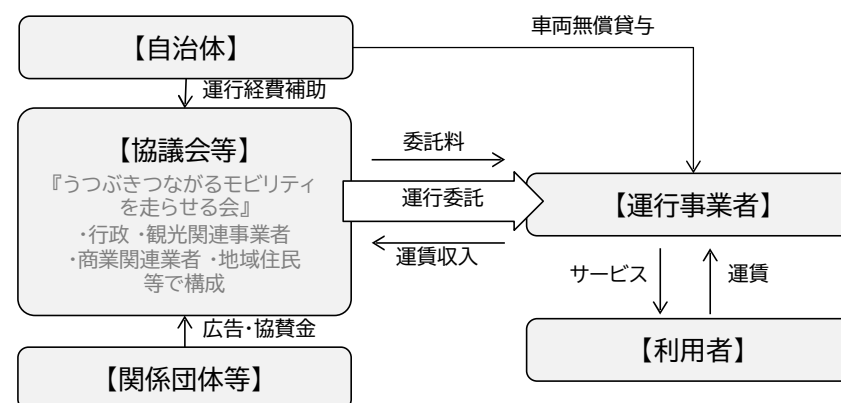
3 地域関係者の連携により、持続性を備え、親しまれる周遊モビリティをつくる 【地域連携強化】

3.1) 新たなモビリティの運行体制・事業スキームづくり

・新たなモビリティを持続可能なモビリティとするためには、人材や予算について過度な負担を発生させない合理的な運営の仕組みが不可欠です。そのためには地域関係者の連携による運行体制や事業スキームづくりが極めて重要です。

①事業スキームの検討・調整

導入するモビリティについては、持続可能なモビリティにするために有償運行を基本とします。また、人材や予算について、持続可能な仕組みづくりを検討するため、関係者間の役割分担を明確にします。



▲事業スキーム (イメージ)

3.2) 新たなモビリティの地域住民外出支援ツールとしての活用検討

・新たなモビリティは、観光支援ツールを前提とした導入を検討しますが、一方、地域コミュニティの活性化にも繋がるツールでもあることから、地域住民の外出支援ツールとしての活用も検討します。

①サービス内容の詳細設定

実証実験での成徳・明倫地区お試しお出かけツアーも好評であったことから、定期的なお出かけツアーを実施するなどの地域住民の外出支援ツールとしての活用が期待されます。そのために観光利用だけでなく、地域向けの利用としてサービス内容の詳細検討を進めます。

▶
実証実験での
地域向け運行
の様子



②事業スキームの検討・調整

地域向けの外出支援ツールとしての活用を検討する際には、乗車定員の少ないグリスロでは、採算性を確保することが難しいと考えられます。モビリティの運行の持続性を備えるためにも、観光利用と生活利用とを棲み分けて、差別化に配慮しながら事業スキームを検討します。